

2017年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

<p>2016年度大学評価（認証評価）結果指摘事項</p> <p><概評></p> <p>・進路支援の方針にある「体系的なキャリア教育を実施」の観点から、全学共通科目と各学部設置のキャリア教育科目との体系化が期待される。</p>
<p>2016年度外部評価委員会指摘事項</p> <p>【特筆すべき事項】</p> <p>・「基礎教育科目」として多くの外国語科目が提供されていることは、グローバル化時代や異文化理解などの視点からも、高く評価できる。</p>
<p>前年度からの課題（2016年度点検・評価シート IV次年度への課題 より転記）</p> <p>2017年度点検・評価シートで、上記の通り所見内容を踏まえた記述にする。</p> <p>文学部と外国語学部の再編成及び文学部大学科制の課題との関係で、文学部共通科目の導入については慎重に対応する。</p>

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準4	教育内容・方法・成果
中項目 4-2	教育課程・教育内容 【自己評定 A】
点検・評価項目(1)	4-2-1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況
	順次性のある授業科目の体系的配置
	専門教育・教養教育の位置づけ
点検・評価項目(2)	4-2-2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容
	キャリア教育の実施状況
点検・評価項目(3)	4-2-3 国際化に対応した教育を行っているか。
評価の視点	教育課程における国際化の推進
	学生の国際交流（交換留学、海外研修等）の推進
点検・評価項目(4)	4-2-4 教育課程の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価 対象期間は2016年4月～2017年5月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は2017年5月1日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-2-1	<p>文学部は、「人間の生き方やあり方を考究する総合的な人間学としての文学をはじめとする人文諸科学に関する学識を修めることを通して、多様な現代社会に対応できる能力ならびに国際社会に対する広い識見と深い洞察力を有する人材の養成を目的とする」を教育目標とし、人文諸科学の基礎から専門までを段階的に学修できる体制を整備してきた。学部を構成する5つの学科は、それぞれ各学科の教育課程の編成・実施の方針に基づき、「全学共通科目」と各学科独自の「基礎教育科目」と「専門教育科目」を組み合わせたカリキュラムを開設して教育課程を編成し、1年次から順に専門性に配慮した授業科目を体系的に配置してきた（A4-2-5）。</p> <p>「基礎教育科目」は、各学科とも1・2年次生に配当し、専門的な知識を習得するうえで必要とされる語学科目を中心にして、情報処理科目と海外研修科目を加え、各学科の特性に合わせて独自に配置している。語学科目は、日本文学科は英語など5言語から選択し、中国文学科は中国語を必修、英語・ドイツ語・フランス語を選択とし、さらに13言語を自由科目として配置し、英米文学科は英語を必修科目にして他の13言語を選択し、教育学科は英語など10言語から選択できるように配置し、書道学科は中国語を必修とし、さらに英語・ドイツ語・フランス語も選択できるように配置している。情報処理科目は、5学科とも配置している。海外研修科目は、日本文学科・中国文学科・教育学科・書道学科の4学科が配置している。</p> <p>「全学共通科目」は、各学科とも1・2年次生に配当し、より広い視野を提供することによって専門的知識の理解に役立つとともに、社会人として必要な教養を身につけることを目的とした科目群であり、自由に履修することが可能である。日本文学科・中国文学科・英米文学科が2単位を必修科目としている（A4-2-5 p.■～p.■）。</p> <p>「専門教育科目」は、各学科とも1年次から4年次に配当し、基礎教育科目、全学共通科目を学びながら、各学科の専門に関する高度な知識、技術、能力を修得することに主眼を置いた科目である。また中国文学科と書道学科は、演習科目の相互乗り入れを通じ、学科間の垣根を低く保っている。</p>
-------	--

	<p>以下、各学科の専門教育科目を中心にコアとなる教育課程を記述する。</p> <p><日本文学科> 古典文学、近・現代文学、日本語学、比較文学・文化の四つの領域から選択して学べるように科目を配置している(A4-2-5 p.25～p.34)。1年次では日本文学の基礎を身につけ、批評能力や創造力が育つよう「日本文学基礎演習」(クラス指定)を配置し、2年次では知識や技能を様々な分野・時代の研究に応用できるよう「日本文学演習」「日本文学講読」「特殊講義(古典文学、近・現代文学、日本語学、比較文学・文化)」を配置し、3年次では研究発表を行えるよう、上代、中古、中世、近世、近・現代、日本語学、比較文学・文化の各ゼミ(演習)を配置し、4年次では学生の個性を活かせる「卒業論文」を配置している。</p> <p><中国文学科> 中国の文学、哲学・思想、文化史、書道芸術、語学などの文化と歴史の領域から選択して学べるように科目を配置している(A4-2-5 p.37～p.43)。1年次では中国文化の基礎を身につける「漢文入門」「中国学入門」「中国語入門」や『論語』基礎演習を配置し、2年次では中国古典に対処する読解力を養う「中国文学基礎演習」「中国史学基礎演習」「中国哲学基礎演習」「中国語基礎演習」を配置し、3年次から4年次は文学・史学・哲学・芸術学いずれかの「特別演習(ゼミ)」を選択して、中国古典を原文で読み、テーマを選んで「卒業論文」に取り組む科目を配置している。また「中国語・文化海外演習」のように、中国か台湾に夏季休暇中の2週間滞在して、現地の大学で中国語と中国文化を学び、国際感覚を磨く科目を配置している。</p> <p><英米文学科> 英米文学(詩・演劇・小説・児童文学)、英語学、比較文化論の三つの領域から選択して学べるよう科目を配置している(A4-2-5 p.47～p.58)。1年次では4年間学ぶ上で基礎となる英語力を身につける科目「Freshman Seminar」「Culture Through English」「Speaking English」「Writing English」「Reading English」「Critical Reading」を配置し、2年次では文学世界への理解を深める「英文学入門」「米文学入門」「英語学入門」を配置し、3年次から4年次では詩、演劇、小説、児童文学、英語学、比較文化論の各演習(ゼミ)に分かれ、テーマを選んで「卒業論文」に取り組む科目を配置している。</p> <p><教育学科> 広義の教育学(心理学や保育学を含む)を専門的に深め学習すると同時に、教育関係職(小学校教諭・幼稚園教諭・保育士・司書/司書教諭・社会教育主事等々)を目指す学習を進めることができるよう、多様な科目を有機的に配置している(A4-2-5 p.61～p.69)。まず1年次には、入門科目として「基礎演習1」が設けられるとともに、学科共通の基礎科目として、「教育学概論」が配置され、2年次には専門課程への橋渡しとしての「基礎演習2A/B」「教育心理学概論」とともに、各教科に関する科目も選択必修できるよう配置されている。また、教科教育法の一部や教科外指導に関わる科目も2年次からの履修となる。3年次には、各自の関心に応ずる形で「演習1」が必修とされるとともに、学科としての専門科目群を中心に、各教科や教科外の教育方法に関わる科目群が配置されている。また、教育実習に向けての指導も開始される(保育士課程については2年次より)。4年次には、多くの学生が「演習2」において「卒業論文」に取り組むとともに、「教育実習」とそれに伴う「教職実践演習」等が配置されている。</p> <p><書道学科> 「書」の文化的役割や機能を推進する力を養う「書学」と、芸術としての「書」の歴史を踏まえて表現する力を養成する「書作」とをバランス良く学べるように科目を配置している(A4-2-5 p.74～p.81)。1年次では4年間の基礎となる知識や技術を身につけるためのオムニバス授業「書道学基礎演習」のほかに、「書道学概論」「中国書道史通論」「日本書道史通論」の書学系の科目と、「楷書法」「行草書法」「篆隸書法」「仮名書法」の書作系の科目を開設し、2年次では研究テーマを見つけるよう「書学基礎研究」を配置し、3年次から4年次では書学演習と書作演習のダブルゼミを履修するよう科目を開講し、研究と制作のテーマを選んで「卒業研究(卒業論文+卒業制作)」に取り組む科目を配置している。また「書道文化演習1(国内)」は関西方面に数日間滞在して、博物館・美術館を見学して日本書道文化のルーツを探り、「書道文化演習2(海外)」は中国か台湾に一週間滞在して、現地の大学で中国書法文化を学び、国際感覚を磨くことを目指している。</p>
4-2-1	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 必要な授業科目の開設状況について【○】 具体的事例： [日本文学科] 新たに基礎古典(半期・2単位)を開設した。教員を目指す学生の古典に関する学力を養成するのを目的とするものだが、高校時代充分な古典の教育を受けてこなかった学生に基礎的素養を身につけさせることも目指している。 [中国文学科] 2017年4月より新カリキュラムを実施し、韻文の唐詩や通史の十八史略を必修化し、基礎を充実させている。結果は新カリキュラムを実施して間もないため観察中。 [書道学科] 2020年度のカリキュラム改正を目指して学科内で具体的に検討を始めた。</p> <p>(2) 順次性のある授業科目の体系的配置について【○】 具体的事例： [書道学科] 2020年度のカリキュラム改正を目指して学科内で具体的に検討を始めた。</p> <p>(3) 専門教育・教養教育の位置づけについて【○】</p>

	<p>具体的事例： [書道学科] 2020年度のカリキュラム改正を目指して学科内で具体的に検討を始めた。</p>
4-2-2	<p>文学部の最大の特徴は、学部の教育課程の編成・実施方針を大前提として、日本文学科、中国文学科、英米文学科、教育学科、書道学科の5学科が、それぞれ独自の教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供していることにある(A4-2-5、A4-2-16、A4-2-17)。そのため、各学科のカリキュラム委員会や教務委員会が、学科に相応しい教育内容が提供されているかどうかを検証し、それを文学部教務委員会において継続的に検証し、学部教授会に報告する体制を組んでいる(B4-2-23 d2-表 19)。</p> <p>以下、各学科の教育内容を、学士課程に相応しい教育内容、入学前教育・初年次教育・高大連携に配慮した教育内容、キャリア教育の実施状況、アクティブ・ラーニング・PBL型授業・国際化に対応した教育、教育課程の適切性の検証体制、に分けて記述する。</p> <p><日本文学科></p> <p>学士課程に相応しい教育内容として、学生が、日本文学に関する知見を深め、問題発見・解決能力を身につけ、社会に出て活躍することができるように、講義科目と演習科目とをバランス良く配置している(A4-2-5 p.25～p.34、A4-2-16、A4-2-17)。「卒業論文」を必修科目とし、1年次より4年次まで少人数クラスの演習科目を選択必修としている点が特色の一つである。</p> <p>入学前教育としては、推薦入試合格者に課題図書を指定し、レポート3点を提出させている。レポートは、「日本文学基礎演習」担当教員が添削し、学生に返却している。初年次教育としては、日本文学研究に関する基本的な知識・技法を学ぶ「日本文学基礎演習」を1年次の必修科目とし、4月当初には、新入生が大学生活にスムーズに適応できるように、新入生セミナーを開催し、キャリア形成に関する講演、先輩による大学紹介、友人作りのための他己紹介等を行っている。</p> <p>キャリア教育については、新入生セミナーの他、「日本文学基礎演習」テキスト『日本文学研究入門』に、「履歴書・エントリーシートの書き方」の項を設け、キャリア形成の意識を高める指導を行っている。</p> <p>卒業論文と連動する3・4年次の「演習乙」は、自ら問題を設定し、討論しながら問題意識を深め、解決方法を模索しながら適切な答えを導き出す、PBL型授業としての実質を備えたものとなっている。</p> <p>教育課程の適切性の検証体制としては、学科のカリキュラム委員会を中心に、学科協議会で常に議論し、教育課程が適切であるかどうか検証する体制を整えている(B4-2-23 d2-表 19)。</p> <p><中国文学科></p> <p>1年次から4年次まで中国の「哲学」「文学」「史学」各分野の授業科目を配置し、中国古典について幅広くかつバランスよく学習できるよう教育課程を編成している(A4-2-5 p.37～p.43、A4-2-16、A4-2-17)。</p> <p>入学前教育としては、推薦入試合格者に対して、中国古典に関する課題図書を指定し、それを読んでレポートを書いて提出させている。初年次教育としては、漢文の基礎を学ぶ「漢文入門」と『論語』基礎演習を、中国語の基礎を学ぶ「中国語入門」を、1年次必修科目として設定している。さらに入学直後の時期に「自己探求セミナー」を開催し、1年次生全員が参加して、自分自身の性格や長所短所を見つめ直し大学生活に馴染めるようにしている。</p> <p>キャリア教育としては、書道学科開催の「義務教育文字文化推進事業」に参画し、学生を派遣している。また2015年度は3年次学生を対象に、夏休み中の2日間、「中国学科キャリア講座」を実施した。</p> <p>2年次から4年次の学生を対象に「中国語文化海外演習」を開講し、夏休み中の約2週間、中国大陸または台湾の大学を訪れ、現地で中国語や中国文化を学習できるようにしている。また特に熱心に中国語を学ぶ学生に対して、学内の奨学金留学や中国政府奨学金留学生の制度を紹介し、留学を積極的に指導している(B4-2-23 d2-表 15、d2-表 16)。3年次・4年次に開講される文学・哲学・史学・芸術学各分野の「特別演習1・2」(いわゆる「ゼミ」)では、自らの興味に従って問題を設定しそれを解決できるよう指導を行い、「卒業論文」と連動させている。</p> <p>このような学科の教育課程について、学科のカリキュラム委員を中心として学科協議会において常時議論し、教育課程の適切性について検証している(B4-2-23 d2-表 19)。</p> <p><教育学科></p> <p>本学科入学生の場合、大多数が小学校教諭から保育士等々の資格取得を強く希望しているという実情があるが、それゆえ余計に学科としては、学生たちの希望を支えつつも、本来の学士課程に相応しい教育内容の提供に腐心している。「教育学概論」に始まる幾つもの学科基幹科目が教職課程資格科目としても位置づけられているが、それらの場合も実際の内容設定において、学科の卒業単位の基礎部分としての役割を意識した運営を行い、また連動した上級科目は教職資格科目から外されている。教育学士としての深く広い教養こそ、教育関連実務家としても骨太の力を養うというのが学科の基本姿勢である(A4-2-5 p.61～p.69、A4-2-16、A4-2-17)。</p> <p>入学前教育としては、各種推薦入試の合格者に課題図書を指定するなどしてレポート提出を求め、入学後の学習への一層の関心醸成を図っている。初年次教育としては、学科主催のオリエンテーション合宿を重視するとともに、「基礎演習1」はあえて通年科目として安定した関係性を少人数で育めるように努めている。</p> <p>従来からキャリアセンターの大きな協力もあって、学科の「実習指導」等と並んで、センターの「採用試験対策講座」や「面接練習」などに多くの学生が参加するようになってきている。</p> <p>本学科には元来、多様な実技・実習科目が組まれているが、とりわけ芸術系の教科科目群はきわめてアクティブな学習機会を</p>

	<p>提供している。また多くの「基礎演習」や「演習」において 養成制度の改変等の機会も多く、それらにも対応すべく学科ではカリキュラム委員会を中心に常時、教育課程の見直し論議を行っている(B4-2-23 d2-表 19)。</p> <p><書道学科></p> <p>1 年次から 4 年次まで「書学」と「書作」をバランスよく履修し、習得するための教育課程を配置している (A4-2-5 p.74～p.81、A4-2-16、A4-2-17)。特に 3 年次と 4 年次は、連年で「書学演習」と「書作演習」の両方を履修する、ダブルゼミ制度を設けている。</p> <p>入学前教育としては、入学試験合格者全員に読書感想文と臨書の課題を提出させ、添削して返却する (推薦入試合格者には 2 回・学力入試合格者には 1 回) という指導を行っている。実際に入学した学生には、直接返却して個別指導も行っている。初年次教育としては、オムニバス授業「書道学基礎演習」で専任教員全員が書学・書作の両面から「書」の学び方を提示し、加えて「書」を学ぶ上で基礎となる「書道学概論」「中国書道史通論」「日本書道史通論」の書学の講義と、「楷書法」「行草書法」「篆隸書法」「仮名書法」の書作の実習を配置している。高大連携としては、大東文化大学第一高等学校生ほか多くの高校生が授業見学に訪れたり、埼玉県立大宮光陵高等学校や伊奈学園高等学校へ出張授業に行ったりしている。また、「高校生のための書道講座」を東京 (板橋校舎) と地方で毎年開講している。</p> <p>キャリア教育としては、「義務教育文字文化推進事業」を 2012 年度より開始し、埼玉県の小中学校の「書初め」指導に参画している。</p> <p>いくつかのゼミにおいて研究発表 (論文・制作) におけるグループディスカッションを行い、首都師範大学、天津美術学院、国立台湾芸術大学などの中国および台湾の協定校からの交換留学生が各授業に出席することから、一部の授業では中国語を使用する授業を展開している(B4-2-23 d2-表 16)。</p> <p>文学部教務委員会で「文学部 5 学科共通の導入科目を設置する」ことを検討中である。</p>
<p>4-2-2</p>	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 学士課程教育に相応しい教育内容の提供について【○】 具体的事例： [書道学科] 2020 年度のカリキュラム改正を目指して学科内で具体的に検討を始めた。</p> <p>(2) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容について【○】 具体的事例： [教育学科] 昨年度から、入学前に推薦入試合格者で入学予定者に対し課題を提起し回答を求め添削の上返却する指導を開始している。</p> <p>(3) キャリア教育の実施状況について【○】 具体的事例： [書道学科] 1 年生の「書道学基礎演習」の中で 2 コマ分をキャリア教育に充てている。</p>
<p>4-2-3</p>	<p>学生の国際交流については、協定校との双方向の留学制度に基づき、適切に運用されている。また、各学科独自の海外研修や語学研修などの機会も増加している。</p> <p>平成 26 (2014) 年度 奨学金留学⇒日本文 1、中国 1、英米 1、教育 2 協定校留学⇒中国 1、英米 4 語学研修 (アメリカ) ⇒中国 1、英米 3、教育 2 語学研修 (オーストラリア) ⇒英米 2 語学研修 (イギリス) ⇒日文 1、英米 3、教育 1 語学研修 (中国) ⇒中国 2</p> <p>平成 27 (2015) 年度 奨学金留学⇒中国 1、英米 3、教育 1 協定校留学⇒中国 1 語学研修 (オーストラリア) ⇒英米 8 語学研修 (アメリカ) ⇒日文 1、英米 2 語学研修 (イギリス) ⇒英米 5、教育 2</p> <p>平成 28 (2016) 年度 協定校留学⇒中国 1、英米 1</p>

	語学研修（中国）⇒中国 5 語学研修（オーストラリア）⇒英米 7 語学研修（アメリカ）⇒英米 2 語学研修（イギリス）⇒英米 1 語学研修（フィリピン）⇒英米 2
4-2-3	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) 教育課程における国際化の推進について【×】 具体的事例： (2) 学生の国際交流（交換留学、海外研修等）の推進について【×】 具体的事例：
4-2-4	学科のカリキュラム委員会を中心に学科協議会で常時議論し、教育課程の適切性について検証する体制を整えている(B4-2-23 d2-表 19)。
4-2-4	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 教育課程の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

4-2-1	
4-2-2	
4-2-3	
4-2-4	

【改善すべき事項】

4-2-1	
4-2-2	文学部として横断的な導入科目を設置する。
4-2-3	
4-2-4	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～2018)	4-2-2 文学部 5 学科共通の導入科目を設置する。	文学部共通の導入科目が設置されている。	→			A	B	
16 年度 目標	4-2-2 文学部将来構想委員会 WG において各学科専門教育の導入として共通科目の設置の可能性を見出す。 文学部 5 学科共通の導入科目を設置する。	文学部教務委員会における文学部将来構想委員会 WG（答申）の再検討と教授会への報告。	→			A		
17 年度 目標	(対象期間は 2017 年 4 月～2018 年 3 月) 文学部 5 学科共通の導入科目を設置する。	前年度からの課題「文学部と外国語学部 の再編成及び文学部大学科制の課題との 関係で、文学部共通科目の導入については慎重に対応する。」を考慮しながら、文学部将来構想委員会 WG の答申を踏まえ、文学部教務委員会において議論を行い共通科目の設置の可能性を検討する。					A	

Ⅳ 評価専門委員会所見

4-2-1 【現状】各学科の教育課程の体系が、きめ細かく具体的に記述されており、評価できます。 (1) 必要な授業科目の開設状況についての項目が【○】となっており、各学科それぞれ新科目の設置やカリキュラム改定などの新たな取組が見受けられますが、英米文学科の記述を見ると、これまでの現状を述べたものにとどまっており、新たな取組とは言えないのではないのでしょうか。新たな取組がなければ記述をする必要はありません。

4-2-2【現状】教育内容、入学前教育、初年次教育、キャリア教育等について、各学科が個別に行っている方策が具体的に述べられており、大変評価できます。

V 所見への対応

--

VI 次年度への課題

特になし

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-2-5 文学部 履修の手引き 平成 28（2016）年度入学生用 《既出》A1-9

A4-2-16 大東文化大学・大学院シラバス（CD-R）

大東文化大学ホームページ（Web シラバス）

<http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html>

A4-2-17 平成 28（2016）年度 文学部時間割表

http://www.daito.ac.jp/education/whole_university/common.html

B4-2-23 大学データ集 《既出》B1-22

〔追加資料〕